

新基地建設反対名護共同センターニュース

うちなーんちゅの民意は揺るがない 8か月ぶりのゲート前県民大行動に700人結集

改良不可能な軟弱地盤、環境破壊の全県への拡大など
「新基地建設は中止すべき」の意見書が1万5千通余

「オール沖縄会議」は3日、2月以来8か月ぶりにゲート前県民大行動を開催、感染症対策をしっかりとつたうえで全県各地の島ぐるみから700人の県民が参加しました。高里鈴代さんなど4人の共同代表が「菅政権に新基地建設反対の民意を突きつけよう」などと挨拶。

玉城デニー知事から「設計変更に対する意見書が1万5千通以上も寄せられた。辺野古新基地反対の民意を表現するため全身全霊を尽くします」とのメッセージが紹介されました。

各政党と島ぐるみ代表が力強く決意

この後、「オール沖縄」の衆参国会議員や県政与党の各代表、各地島ぐるみ代表、ヘリ基地反対協代表などが報告と決意を述べました。真夏のような好天に恵まれた中で、集会では終始熱いリレートークが続ぎ、コロナ禍の中でも「辺野古に新基地は絶対に造らせない」との、うちなーんちゅの民意はいささかも揺るがないことを、あらためて確認しあつた集会となりました。



ヘリ基地反対協
仲本興真氏



衆院議員
赤嶺政賢氏



共同代表
高里鈴代氏



10月5日朝のゲート前では約40人が座り込み抗議を続けました

「1工区の埋め立て完了」は3倍遅れ

防衛局が1日に埋立区域の②-1区域について高さ3.1mまで埋め立てを完成したと発表したことについて5日、ゲート前で司会の県統一連・瀬長和男事務局長は「当時の岩屋防衛大臣が半年で完了すると言っていた工事が3倍の期間がかかった。この分では政府計画の12年の全工期が36年もかかることになる」と皮肉り、工事の即時中止を求めました。



うるま市の島ぐるみ代表は全員赤いマスクで参加しました

国はこれ以上沖縄に基地を押し付けるな！ 遊休化した那覇軍港は移設ではなく無条件返還を



中南西部海岸で唯一の自然の海を壊し大軍港を造ることは許せない
琉球大・亀山助教が講演

「浦添西海岸の未来を考える会」は4日、浦添西海岸に那覇軍港の移設計画が持ち上がったという問題の是非を考える講演会を浦添市内で開催しました。琉球大の亀山統一（のりかず）助教（写真）が講演、約140人の県民が参加しました。

亀山氏は「那覇から北谷町までの県人口の約半数が住む一帯で奇跡的に残された自然の海は浦添西海岸だけです。遊休化した那覇軍港は無条件に返還させ、那覇・浦添に持続可能な街と産業を築きましょう。このため国に対してこれ以上沖縄に基地を押し付けるな」と要求していきましよう」と話し、デニー知事の移設容認に触れ、「オール沖縄の共闘が壊れると心配している人もいるでしょうが、民主主義の主役は国民。私たちの思いが県政を作っていく。一から考えましよう」と訴えました。閉会挨拶で新婦人県本部の久手堅幸子会長が「今後、浦添西海岸の未来を考える市民の会として学習会や宣伝・署名運動に取り組みます」と表明し、協力を訴えました。



熱心な交流も行われた講演会